

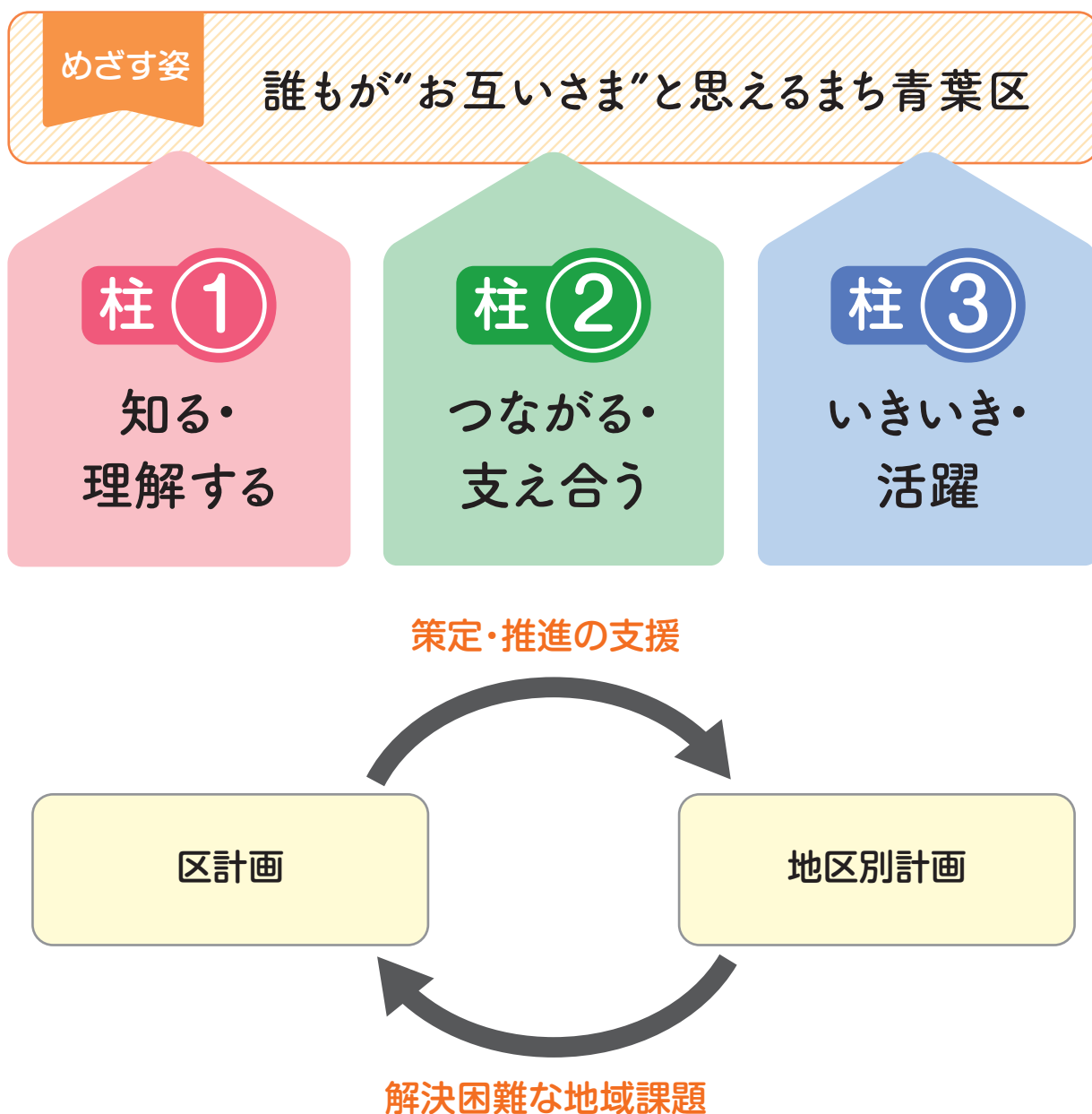
# 第3章 第5期計画について

## 第1節 計画の構成

区計画プロジェクトによる第4期計画の振り返り、関係者アンケートによる区民のニーズ把握の結果を踏まえ、青葉区の現状と課題を整理しました。その上で、青葉区地域福祉保健計画策定・推進検討会において総合的な検討を行い、第5期計画を策定しています。

第5期計画では、第4期計画の「理念・目標」を継承しつつ、より分かりやすい計画とするため、構成の見直しを行いました。新たに青葉区の「めざす姿」を掲げ、その実現に向けた取組をテーマごとにカテゴリー分けし、「3つの柱」に整理しました。

### 青葉かがやく生き生きプラン(第5期 青葉区地域福祉保健計画)計画構成



## めざす姿

「めざす姿」は、住民・事業者・関係機関が協働して様々な取組を行い、実現を目指していくまちの姿です。地域に暮らす誰もが、加齢や病気、障害、子育てなど様々な理由により、生活の中で困りごとを抱える可能性があります。自身が困ったときは周りの誰かに支えられ、周りの誰かが困っているときは自身が支える「誰もが“お互いさま”と思えるまち青葉区」を目指していきます。

## 3つの柱

「めざす姿」を実現するための3つの柱は、以下のとおりです。

- 「知る・理解する」 地域には様々な状況の人が生活していることを知り、互いに認め合う
- 「つながる・支え合う」 世代や立場を超えて地域全体がつながり、見守り支え合う
- 「いきいき・活躍」 地域に住む一人ひとりが健康的に役割を持って活躍する

## 取組の視点

各柱における取組の方向性を「取組の視点」として整理しています。取組の視点は地域の皆さんに日常生活の中で意識していただきたい「地域の皆さんの視点」と行政や区社会福祉協議会（以下、「区社協」）、地域ケアプラザ等が業務を行う上で意識する「関係機関の視点」の2つで構成しています。

## 区計画と地区別計画

計画は、区域全体に関わる取組を整理した「区計画」と区内15の地区連合エリアごとの取組を整理した「地区別計画」で構成しています。

「区計画」では、地区だけでは解決が難しい課題や、区内に共通する課題への取組を進めます。「地区別計画」では、地域の特性や強みを活かして各地区が主体的に取組を進めることで、計画全体の推進を図ります。

### 【区計画】取組指標について

第5期計画では、取組の進捗状況や成果・効果等を定期的に振り返り、今後の活動や次期計画策定に活かしていくため、3つの柱ごとに指標を設けます。

指標は、客観的に状況を把握できる定量データ（数値で把握できる情報）とします。

# 柱 1

## 知る・理解する

青葉区の人口は減少傾向にある一方で、高齢化に伴って、高齢者単身世帯及び介護保険認定者数が増えています。また、障害者手帳所持者数も増加傾向にあります。

加齢や病気、障害などにより生活上のサポートが必要な状況でも、一人で抱え込んでしまう場合があります。周りが日常的な変化に気づき、声を掛けていくことで困りごとの深刻化を未然に防ぐことにつながります。

その第一歩として、様々な困難を抱えている人の存在を知ることが大切です。また、住み慣れた地域で暮らし続けるために、困ったときに相談できる人や組織、場が地域にあることを知るなど、お互いに理解を深めることが重要です。

第4期計画では、認知症や障害に関する講座や講演会、イベントなどが当事者の方の暮らしぶりを知る機会となりました。また、地域の活動団体や相談機関によるインターネットを活用した情報発信が広がりました。

第5期計画では、認知症や障害など様々な立場の人への理解を更に進めるため、施設・事業者などと連携して、周知啓発や住民同士が知り合う機会の創出を進めていきます。



### 取組の視点

#### 〈地域の皆さんの視点〉

- 1 挨拶で顔見知りを作り、周りの人のことを知ろう。
- 2 障害や認知症など様々な人が暮らす自身の地域について理解を深めよう。
- 3 様々な媒体を活用して積極的に情報を受け取りにいこう。
- 4 地域活動（自治会町内会・地区社会福祉協議会等）の魅力ややりがいを積極的に発信していこう。

#### 〈関係機関の視点〉

- 1 生活上の困り事や悩み事に関する講座の実施や、身近な場で気軽に相談できる場づくりを進める。
- 2 障害や認知症など、地域に暮らす様々な立場の人の状況を知り、身近に感じられる機会を提供する。
- 3 地域活動者や施設・事業者などと連携して周知・啓発に取り組む。
- 4 様々な状況の人に情報が届くよう、従来の方法に加え、SNSなど新たな手法を活用する。

## 具体的な取組

### 具体的な 取組1

#### 身近な地域での相談対応 【地域ケアプラザ】

地域ケアプラザは地域に住むすべての人を対象とした、福祉・介護・健康に関する身近な相談窓口です。

住民や事業者と協力しながら、支え合う地域づくりを目指し、地域活動やボランティア活動など地域で活躍する人を支援しています。

地域ケアプラザへの来所が難しい方のため、自治会館等で相談会や介護予防講座を開催するなど、地域に出向いての相談対応も行います。



相談対応

### 具体的な 取組2

#### 移動情報センター 【区社協】

障害のある人のための外出に関する相談窓口として、制度やサービスの情報提供、事業所の紹介やガイドボランティア\*のコーディネート等を行います。また、障害特性の理解、サポート方法等をテーマにした研修・講座も実施します。

今後も関係機関と連携したコーディネートや地域での理解啓発・周知活動を推進していくとともに、ガイドボランティアの活動をサポートしていきます。



ガイドボランティア養成講座

\*ガイドボランティア：  
障害のある人が外出する際、  
サポート役として同行し、  
支援するボランティア

### 具体的な 取組3

#### 認知症の普及啓発【高齢・障害支援課・地域ケアプラザ】

2040年には、高齢者の約3人に1人が認知症又は軽度認知障害(MCI)\*になると予測されています。こうした状況をふまえ、認知症を「誰もがなりうるもの」として捉え、本人・家族・地域住民が支え合いながら、認知症とともに生きる「共生社会」の実現が求められています。

認知症の人が社会参加しやすい環境や、見守りのサポート体制を整えていくために、地域住民や関係機関などがチームを組み、本人や家族の希望・願いの実現、困りごとの解決を目指す「チームオレンジ」の取組が進んでいます。また、認知症の人と家族を温かく見守る「認知症サポーター」の養成にも、積極的に取り組んでいます。

「認知症になっても自分らしく安心して暮らせるまち青葉区」を目指し、つながり、理解し、支えあう「お互いさま」の地域づくりを進めます。

\*軽度認知障害(MCI):認知症と正常(健常)の中間の段階で、記憶力や注意力などの認知機能が低下しているものの、日常生活には支障がない状態のこと



すすき野ふれあいスローショッピング

**具体的な  
取組 4** 障害児・者の余暇・交流支援  
【地域ケアプラザ(一部)】

障害のある人と地域住民が交流するイベントの開催などを通じて、地域で余暇を楽しむ場づくりや社会参加ができる環境づくりを進めます。小学生と近隣施設に通う障害のある人との交流や、スポーツや外出プログラムなどの活動をきっかけとして、顔の見える関係づくりや相互理解につなげます。

また、地域活動を障害当事者の方に知ってもらい、日常的に参加するきっかけづくりを行います。



ひるがおカフェ

**具体的な  
取組 5** 障害理解に関する普及啓発  
【高齢・障害支援課】

障害のある人の個性や生活の様子を知り、理解してもらうことを目的に、精神障害やメンタルヘルスに関する講演会の開催や、パンフレット等による普及啓発を行います。

また、障害のある人とない人が一緒に参加できる「ユニバーサル野球」イベントを開催し、障害の有無を問わず地域住民が交流し、互いを理解し合う機会を作ります。



ユニバーサル野球

**具体的な  
取組 6** 児童虐待防止に関する普及啓発  
【こども家庭支援課】

児童虐待は子どもの健やかな成長を阻害する重大な人権侵害であり、地域全体で防止に取り組むべき課題です。

地域の中で児童虐待防止に関する意識を醸成し、取組を知ってもらうことを目的に、区民まつりでの啓発ブース設置、区内施設等でのポスター掲示、関係機関向け講演会、地区民生委員・児童委員協議会での啓発活動等を実施します。

これらの取組により、児童虐待への関心と理解が広がり、地域での早期発見や予防的支援に繋がるよう支援を行っていきます。



区民まつりでの啓発

**具体的な  
取組 7** 多様な情報発信  
【区政推進課】

区役所や区内施設からのお知らせ、防災情報、地域で開催されるイベント情報などを広く伝えるため、各種広報ツールを活用した情報発信を行います。(P67参照)

また、外国人や障害のある人などに配慮した、やさしい日本語や多言語による「あおバリューRadio」の放送、広報よこはまの音声読み上げ・多言語自動翻訳ができる「広報誌閲覧サービス・カタログポケット」による発信なども行います。



## その他の取組

### ● くらしに役立つ講座【地域ケアプラザ】

スマホの使い方や成年後見制度など、高齢者の暮らしに役立つ知識・情報が学べる講座を実施します。※施設によって実施する講座は異なります。

### ● お悩みあれこれガイドの活用【生活支援課】

様々な分野の社会資源を地域住民、支援者が活用できるよう、分かり易く発信します。

### ● 福祉教育【区社協】

障害当事者（肢体・視覚・聴覚障害者など）の方からの普段の生活の様子や困りごと等についての講話、体験（点字・弱視・車いす等）などを通じて福祉の理解を進めていきます。

P66参照

### ● 国際交流ラウンジ【地域振興課】

海外にルーツを持つ人が安心して地域で暮らせるよう、多言語での生活情報の提供、相談などを行います。

### ● 中途障害者支援事業【高齢・障害支援課】

脳血管疾患や高次脳機能障害の理解を深め、早期発見、再発予防の取組を進めます。当事者の社会参加が進むよう、中途障害者地域活動センターや関係機関と連携し、サービスの利用促進に向けた支援を行います。

## 取組指標

- 地域で相談できる場所の認知が広がっている  
➡地域ケアプラザの相談数
- 認知症について理解している人が増えている  
➡認知症サポーター養成講座の受講者数
- 障害について理解している人が増えている  
➡障害に関する講演会の受講者数
- デジタルツールを活用した情報提供が広がっている  
➡区役所におけるSNSを活用した情報発信回数



## 柱 ②

# つながる・支え合う

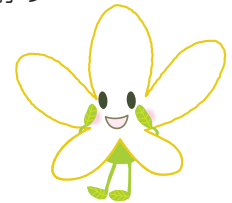
地域で暮らす人の困りごとに周りが気づくためには、日頃から住民同士や住民と関係機関がつながっていることが大切です。

しかし、共働き世帯の増加による日中に地域にいる人口の減少や、自治会町内会加入率の低下などにより、住民同士のつながりが希薄になってきています。高齢化などを理由として長年活動してきたボランティア組織や自助グループの解散も相次いでいます。

一方、趣味や興味関心を通じて新たに立ち上がったグループや、企業・施設・事業者などによる地域貢献活動が広まりつつあり、つながりや支え合いの形が変化してきています。

第4期計画では、コロナ禍において、感染予防を行いながらの見守り活動や屋外での活動などこれまでとは違う支え合いの形が生み出され、日頃から地域でつながる仕組みづくりの必要性が再認識されました。

第5期計画では、地域の皆さんや関係機関がより密接に連携し、それぞれの立場や役割の強みを活かして地域の中で見守り合い、支え合う体制づくりに取り組んでいきます。



### 取組の視点

#### 《地域の皆さんの視点》

- ① 日常生活の中の個人と個人のささやかなつながりを大切にしよう。
- ② 身近な仲間の小さな変化を気にかけてよう。
- ③ 身近な地域の活動に参加し、地域とのつながりを広げていこう。
- ④ 他の団体との連携など新たなやり方を取り入れながら活動を広げていこう。

#### 《関係機関の視点》

- ① 学校や企業等、多様な機関と連携し、切れ目のない支援体制を構築する。
- ② 子どもや高齢者、障害のある人などを支えていくため、住民同士がお互いをゆるやかに見守り合える体制づくりを支援する。
- ③ 身近な地域で世代や立場を超えて人が集い、つながる機会を創出する。
- ④ 住民同士が支え合える仕組みを災害時の対応に活かしていく。

**具体的な  
取組1**
**セーフティネット会議・地域ネットワーク  
構築支援事業【生活支援課】**

生活に困窮している人を支援者同士が連携して支援していくため、地域ケアプラザやハローワークなど、分野を超えた様々な関係機関が定期的集まり、情報共有や事例検討を行います。(セーフティネット会議)

また、関係機関と協働し、身近な地域の中で生活に困窮している人を早期に把握し、自立した生活を支えるためのネットワークづくりにも取り組みます。(地域ネットワーク構築支援事業)



セーフティネット会議

**具体的な  
取組2**
**子育て支援ネットワーク連絡会  
【こども家庭支援課・地域ケアプラザ】**

子育て世代が孤立せず、安心して子育てができ、子どもが健康に育つことを目的として実施しています。

区内11エリアで行っている地区別連絡会では、支援者同士が顔見知りの関係を築くことから始め、お互いの役割を理解し、エリア内の困りごとや課題を把握して、課題解決に向けた取組の企画・実施へとステップアップしながら進めています。

区レベルの連絡会では、地区別連絡会の運営支援、地域課題の共有、必要な事業の検討等を行っています。



P64参照

**具体的な  
取組3**
**自立相談支援事業  
【生活支援課】**

生活困窮者自立支援制度に基づき、専門の相談員が就職や住まい、家計管理などの困りごとや生活に不安を抱えている人の相談に応じます。

相談員は、本人に寄り添いながら一人ひとりに合った具体的なプランを作成し、自立に向けた伴走支援を行います。(本人だけでなく、家族や関係機関からの相談にも応じます。)

より多くの人に事業を活用いただけるよう、制度周知に取り組んでいきます。



P65参照

**具体的な  
取組4**
**あんしんセンター  
【区社協】**

自身で金銭や大切な書類を管理することに不安のある高齢者や障害のある人の金銭管理や福祉サービスの利用などを契約に基づいて支援します。本人の通帳をお預かりし、定期的な訪問により生活費をお届けする他、福祉サービスの書類手続きなどの援助を行います。

高齢者の増加に対応するため、制度周知や関係機関と連携した相談対応をさらに進めていきます。


 青葉区社協あんしんセンター  
リーフレット

**具体的な  
取組 5** 民生委員等による地域の見守り  
体制の構築【福祉保健課】

支援が必要な高齢者や障害のある人などを関係機関だけでなく、地域住民も一体となって支えていくため、各地区の民生委員を中心とした地域の見守り体制の構築・強化を支援します。

民生委員を対象とした研修の実施や地区定例会の開催支援などを通し、地域の見守り活動の充実を図るとともに、民生委員の新たな担い手や協力者の確保にも取り組んでいます。



民生委員による訪問活動

**具体的な  
取組 6** 地区社会福祉協議会(地区社協)の  
活動支援【区社協】

地区社協は、概ね地区連合圏域で地域の福祉に関する団体や個人によって構成されたネットワーク組織です。自治会や民生委員、ボランティアグループ、施設など幅広い人たちが参加しています。

区社協は、地区社協分科会の開催、情報提供、助成金の交付などを行い、地区社協の活動を応援します。

今後も区内15の地区社協と共に、困りごとを解決できる地域づくりを進めていきます。



地区社協分科会

**具体的な  
取組 7** 地域住民の集いの場の充実  
【地域ケアプラザ】

地域住民の交流や、孤立の防止を目的に、情報交換・友達づくりなどの集いの場が地域で開かれています。開催の頻度や内容、参加対象は多様です。自宅や職場・学校以外でも安心して過ごせる地域の居場所である他、ボランティアや趣味活動を通して仲間をつくる場にもなっています。

地域の中で自分らしく、他者とのつながりを持ち続けるための場が充実するよう支援していきます。



気づきの和のわ!

**具体的な  
取組 8** 地域防災体制の充実  
【総務課・福祉保健課】

大地震や大雨などの発災時に地域で連携して助け合い、被害を最小限に抑えることができるよう、各自治会・町内会との連携や地域防災拠点・地域定点診療拠点訓練の実施を支援します。

その他、防災に関する講座の開催、「ハザードマップ」の配布、青葉消防署による「よこはま防災eパーク」の周知等によって一人ひとりが防災意識を高められるよう働きかけを行います。



P67参照

地域定点診療拠点訓練

## その他の取組

### ● 成年後見サポートネット事業【高齢・障害支援課】

高齢者・障害者の権利擁護を推進するため、関係機関のネットワークを強化します。

### ● あおば災害ネット【高齢・障害支援課】

災害時に地域で手助けが必要な人の避難誘導、安否確認等の支援を行う仕組みづくりを進めます。

### ● 青葉ふれあい見守り事業【福祉保健課】

ひとり暮らし高齢者等を対象に、民生委員を中心とした定期訪問・電話による見守り活動を実施します。

### ● 支援者同士のネットワークづくり【地域ケアプラザ】

地域の活動者や施設、事業者、医療関係者などの支援者が地域課題を共有し、課題を解決するためのネットワークの構築を支援します。

### ● 親子の居場所づくり【地域ケアプラザ】

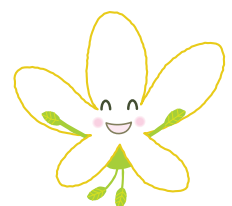
子育て世代の孤立を防ぎ、安心して子育てできるよう、親子が集い交流する場を作ります。

### ● 福祉避難所との連携強化【高齢・障害支援課】

災害時に地域防災拠点や自宅での避難生活が困難な方を受け入れる福祉避難所との連携を強化します。

## 取組指標

- 多様な機関と連携し、地域の課題を共有している
  - ➔セーフティネット会議、子育て支援ネットワーク連絡会の参加者・団体数
- 住民の見守り合いの体制が作られている
  - ➔青葉ふれあい見守り事業の対象者数
- 身近な地域で人が集い、つながる機会が作られている
  - ➔高齢者の集いの場の参加者数
- 災害時に支え合う体制づくりが進んでいる
  - ➔防災訓練の参加者数



## 柱 ③

# いきいき・活躍

青葉区は、平均寿命及び平均自立期間の長さが全国上位であり、区内には、様々な場面で活躍できる元気な高齢者が多く暮らしています。また、区内に6つの大学があり、青少年や学生がボランティアとして活躍していることが、青葉区にとっての大きな強みです。

一方で、人口は減少傾向にあり、多くの地域活動団体が課題として「担い手不足」を挙げています。人口減少は経済的な労働力不足だけでなく、地域活動の人手不足にも影響を与えています。世代や文化、障害の有無を問わずすべての人が、いきいきとした生活を送り、地域で活躍することが、地域に良い影響を与えます。

第4期計画では、住民が講師を行うハマトレキャスト、障害のある人の作品を販売するふれあいマルシェなど、住民が主体となって活躍する場が広がりました。

第5期計画では、引き続き、住民の健康増進を支援し、それぞれの世代、立場の強みを活かして活躍できる場をさらに拡充させていくことで、多くの方が地域活動に関心を持ち、地域を支える担い手となっていただけるよう取り組んでいきます。また、地域活動を気軽に始められ、その後も長く続けられるよう、複数の活動者で分担する体制づくりにも取り組んでいきます。



### 取組の視点

#### 〈地域の皆さんの視点〉

- ① 健康づくりに関心を持ち、定期的に健診（検診）を受けよう。
- ② 元気なうちから地域とつながり、仲間と一緒にいきいきと過ごそう。
- ③ 身近な地域の中で興味のあること、関心のあることを見つけ、参加しよう。
- ④ 地域行事などの参加者にも役割を持ってもらい、活躍してもらおう。

#### 〈関係機関の視点〉

- ① 健康づくりに関心を持てる機会を提供する。
- ② 身近な地域で、年齢や身体の状態などに合わせた形で健康づくりができる場・機会を創出する。
- ③ 地域に携わるきっかけづくりの場を提供する。
- ④ それぞれの世代や立場の強みを活かして地域で活躍できるよう支援する。

### 具体的な取組1 セミナー等による健康寿命の延伸 【福祉保健課】

保健師・管理栄養士・歯科衛生士による生活習慣改善の相談、糖尿病やオーラルフレイルなどの生活習慣病予防をテーマとしたセミナーを実施し、日常生活の中で健康づくりを意識できるよう支援します。

また、自身の身体の状態を確認し、生活習慣の改善や適切な医療機関の受診を通じて生活習慣病の発症や重症化を予防するため、イベント等で特定健診・がん検診などの普及啓発を行います。



糖尿病セミナー

### 具体的な取組2 介護予防 【高齢・障害支援課・地域ケアプラザ】

いきいきと活力ある高齢期の暮らしを長く続けていくためには「フレイル予防」を推進していくことが重要です。

身近な場所で仲間と楽しく交流しながら健康づくりや介護予防に取り組む「元気づくりステーション」の活動支援や、ロコモ予防に効果のある「ハマトレ」を地域に広げる「ハマトレキャスト」の人材育成に力を入れています。

また、地域ケアプラザでも介護予防に関する様々な講座・教室を開催しています。

※「フレイル予防」や「ロコモ（ロコモティブシンドローム）」についてはこちら↓



ハマトレキャスト養成講座

### 具体的な取組3 地域活動・ボランティア活動への参加支援 【地域振興課・区社協・地域ケアプラザ】

身近な地域で居場所や役割を持って過ごせるよう、ボランティアの依頼者と活動者をつなげるコーディネートを行います。就労中の人、学生、障害のある人、高齢者など、様々な立場の人が強みや希望に応じた活動で活躍できるよう、関係機関と連携しながら情報提供などを行います。

また、活動者・団体同士が知り合い、互いに助け合える関係づくりを支援します。



ボランティア入門講座

### 具体的な取組4 あおばちえのわ 【地域振興課】

自治会・町内会やテーマ型の団体など、地域活動に携わっている区民向けに、活動上の困りごとを解決するためのアイデアを学べる講座「あおばちえのわ」を開催します。

活動者が知りたいこと、困りごとをテーマに、講義や現場見学で学び、さらにグループワークや交流会を通して楽しみながら活動の仲間を増やしていきます。



あおばちえのわ

具体的な  
取組 5

## 生活支援体制整備

【高齢・障害支援課・区社協・地域ケアプラザ】

高齢者一人ひとりが、自身のできることを大切にしつつ、できる限り自立して住み慣れた地域で暮らし続けるためには、公的な支援だけでなく、地域の中で助け合う仕組みが欠かせません。

地域住民やボランティア、民間事業者などの多様な関係団体と連携し、日常生活のちょっとした困りごとである買い物やゴミ出し等の支援、移動に関する情報提供、担い手の発掘・育成など、高齢者の生活を支える取組を進めています。



ちよこボラ

具体的な  
取組 6

## 高齢者の社会参加促進

【高齢・障害支援課】

高齢者が、興味や関心に応じて、地域の「集いの場」に参加し、仲間とつながって楽しく活動を続けられるよう、eスポーツなどの新たなツールを活用しながら、社会参加を支援します。

あわせて、生きがいづくり、地域での活躍の場として重要な「老人クラブ」の活動を支援し、誰もが役割を持って輝ける地域づくりを目指します。



eスポーツ

具体的な  
取組 7

## ふれあいマルシェ

【高齢・障害支援課】

区役所1階区民ホールで週2～4回、障害のある人が通う作業所・施設等で作られた雑貨やお菓子等の自主製品を販売するふれあいマルシェを開催します。

作業所等の利用者が販売やマルシェの開催をお知らせする庁内放送にも携わることで活躍の場を広げるとともに、地域住民と交流し、活動内容を多くの人に知ってもらう機会としていきます。



作業所・施設等で作られた自主製品

具体的な  
取組 8

## 青葉6大学連携

【区政推進課】

区内にキャンパスを有する6大学と連携・協力に関する基本協定を締結し、各大学と連携して、特別講座の開催や区制30周年記念イベント「あおば6大学FES」の実施、AOBA GUIDE BOOKの作成などを行ってきました。

今後も、区役所と大学が連携して、双方の魅力発信や地域課題の解決に取り組むことで、地域の活性化、人材育成、学術研究の充実などを図っていきます。



あおば6大学FES

## その他の取組

### ● 健康づくり・活躍の場の提供【地域ケアプラザ】

健康的に生き生きとした生活を送れるよう、楽しく身体を動かし、多世代交流ができる機会を設けます。

### ● 「まち活」で地域デビュー講座【地域振興課】

地域活動のノウハウや仲間と一緒に活動する楽しさを学ぶ講座を実施します。

### ● 保活・ヘルスマイトの活動支援【福祉保健課】

各地区の保健活動推進員、食生活等改善推進員と区役所が協力し、地域の健康づくりのための様々な活動を行います。

P68・69参照

### ● 自治会・町内会支援【地域振興課】

地域住民が連携し、環境・防災・防犯等の課題に取り組みながら地域づくりを行う自治会・町内会の活動を支援します。

### ● あおばコミュニティ・テラス【こども家庭支援課】

青少年が様々な世代との出会いや交流の機会を持ち、多様な形で地域活動に携わる機会を提供します。

## 取組指標

- 日常生活の中で健康づくりを意識している人が増えている
  - ➡健康に関するセミナーの受講者数
- 身近な地域での介護予防活動が広がっている
  - ➡元気づくりステーションの開催数・参加者数
- 地域活動で活躍している人が増えている
  - ➡ボランティアセンターの登録者数
- 高齢者支援の活動を行う団体が増えている
  - ➡ayamu\*の登録団体数

\*ayamu:高齢者が主たる対象の地域活動サービス検索ナビ



## 第2節 計画の推進体制

計画は、住民による身近な支え合い、関係機関（区役所・区社協・地域ケアプラザ等）が行う福祉保健サービスや公的支援など、それぞれが強みを活かしながら、協働して推進していきます。

### 区計画

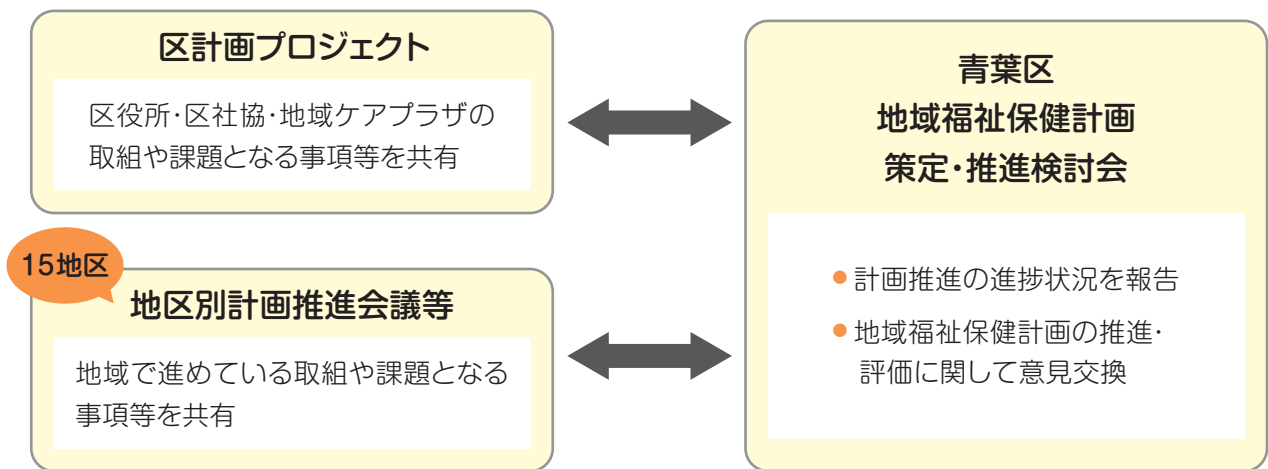
区役所・区社協・地域ケアプラザが事務局となり、様々な施設・団体・機関と連携しながら取組を進めます。関係機関で実施する「区計画プロジェクト」を通じて、取組状況や区内の課題・現状を共有し、計画の推進に必要な取組等について議論を行います。

### 地区別計画

地区連合や地区社協などの地域の福祉保健活動に関わる団体や関係機関が中心となって、各地区の取組を進めます。地域の活動者や関係機関が集まる「地区別計画推進会議」等で、活動状況や課題の共有、意見交換を行いながら、計画を推進していきます。

会議等で把握した取組状況や課題等を「青葉区地域福祉保健計画策定・推進検討会」に報告し、計画の推進や振り返りについて意見交換を行います。

#### 〈計画の推進体制イメージ〉



#### 推進状況の把握と振り返り

- 計画の推進にあたっては、各取組の進捗や成果・効果等を定期的に振り返り、その後の活動に活かしていくため、柱ごとに取組指標を設けています。
- 取組指標は、地域や関係機関がどのような取組をどれくらい実施できたかを把握するため、定量データ（数値で把握できる情報）としています。
- 定性データ（数値で表せない質的情報）も把握して計画の振り返りを行います。
- 振り返りでは、「どのような変化があったか」、「次期計画に向けて何が必要か」を関係者で話し合い、取組の推進や次期計画策定に活かすことを重視します。

## 関係機関紹介

### 青葉区社会福祉協議会とは

社会福祉法人青葉区社会福祉協議会は、誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだすために、地域の皆さんと一緒に様々な活動をしている民間団体です。事務所は市が尾駅から徒歩4分ほどの「ふれあい青葉」の中にあります。(下図参照)



#### ★社協の活動★ ※「社協」=社会福祉協議会の略称

##### 地域の福祉活動を支える

- ・ 地区社協の組織運営等に対する支援 **地区社協支援**  
↳ 分科会での情報提供や意見交換、助成金を通じた資金面での支援や活動のサポート等
- ・ 高齢者が住み慣れたまちで安心して暮らせるようなしくみづくり **生活支援体制整備事業**
- ・ 地域の福祉活動団体(子ども食堂等)を支えるしくみ  
**あおばふれあい助成金** **年末たすけあい募金配分金** **善意銀行助成金**

##### 地域の団体やボランティアを応援

- ・ ボランティア活動の相談や紹介、福祉教育やイベントなどでの福祉機材の貸し出し  
**あおばボランティアセンター**
- ・ 子どもの居場所運営団体のネットワークづくり **子どもの居場所連絡会**

##### 高齢者や障害のある方をサポート

- ・ 障害により外出がむずかしい方に必要な情報提供やコーディネート **青葉区移動情報センター**
- ・ 日常のお金の管理に不安がある高齢者や障害のある方を対象に、契約に基づき、安心して生活が送れるように支援 **青葉区社協あんしんセンター**

##### 生活にお困りの方をサポート

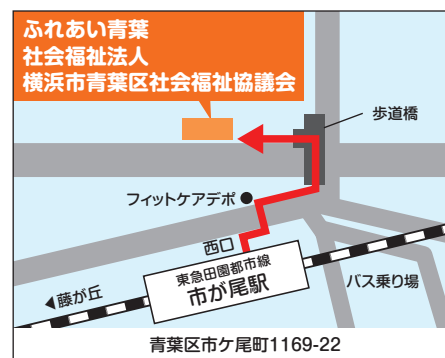
- ・ 低所得や障害などによる経済的な困りごとの相談に対応 **生活福祉資金貸付事業**
- ・ ご寄付いただいた食品を生活にお困りの方などにお渡しし、助け合いの地域づくりを推進  
**FSA(フードサポートあおば)**

##### 情報発信やイベントも!

- ・ 「あおば社協だより」の発行
- ・ ホームページやSNS等により情報を発信
- ・ ボランティア講座やガイドボランティアの交流会などの開催
- ・ 青葉区社会福祉大会(地域の活動者の表彰や活動の発表) 等

#### ◆活動のための財源

青葉区社協の活動は、行政からの補助金・委託金などのほか、区民の皆さんからの会費や募金により、支えられています。





## 地域福祉保健計画の必要性

愛知東邦大学 人間健康学部教授 西尾 敦史  
(青葉区地域福祉保健計画策定・推進検討会委員)



### (1) 青葉かがやく生き生きプランについて

「誰もが“お互いさま”と思えるまち青葉区」をめざす姿とし、「知る・理解する」「つながる・支え合う」「いきいき・活躍」を取組の柱とした、青葉かがやく生き生きプラン（第5期青葉区地域福祉保健計画）がまとめられました。

この計画は、地域を基盤として暮らし、活動している人が共通して向かう方向性を明文化したもので、さまざまな人と出会い、お互いを知り、理解し、協働し実現していくプロセスのなかで、地域の支え合う力を高め合っていくことが期待されます。

### (2) 社会的つながりに関する日本の状況

計画のめざす姿・取組の柱の背景には、孤立・孤独の深まりという近年の社会変化があります。

社会的交流時間に関する調査（経済協力開発機構2020）では、日本は友人や家族と過ごす時間が24か国中最下位で、驚くほど社会的交流が少ないことが分かりました。

また、友人関係に関する調査（村田ひろ子氏2018）によると、日本では成人後に新たな友人を持つことが少ない傾向にあり、特に高齢の男性ほどその傾向は強まります。70歳以上の男性では友人が「いない」と答えた割合が半数以上となっています。

さらに、日英米の孤立・孤独に関する調査（2018）によると、孤立・孤独は「自己責任」だと答えた割合は、日本が最も高く、アメリカの世論調査会社の調査（2015）では、「過去1か月の間に、助けを必要としている見知らぬ人を助けましたか？」という質問に「はい」と答えた割合が、25%で、調査対象国140か国中139位でした。見知らぬ人への手助けに、躊躇する傾向があることが伺えます。

### (3) 誰もが自分らしく安心して暮らせる地域社会のために

しかしながら、さまざまな研究から、社会的交流が多いほうが、生活の満足度、幸福度が高いことが明らかになっており、つながりの構築は社会で取り組むべき最重要課題と言えます。

この区計画、15の地区別計画の中には、社会的処方というべき私たちの地域社会に必要な取組が数多く盛り込まれています。

子どもの頃から参加できる多世代交流の場を広げていくこと、多様性の理解を進めていくこと、若い世代や現役世代が受け取りやすいように情報発信していくこと、高齢期の孤立・孤独のリスクを小さくするために、気軽に参加できる多様な場・機会を作っていくことが、社会的交流を豊かにし、計画が目指す自分らしく安心して人を頼れる社会につながるはずです。

ぜひ、この計画を手携えていただき、自分ができること、地域ができることを考えて積極的にご参加いただけると幸いです。